

号外

旧石器ハテナ館だより

尖頭器



尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館

史跡田名向原遺跡
旧石器時代学習館

神奈川県相模原市中央区

田名塩田3-23-11

TEL042-777-6371

令和2年6月1日

【号外】

展示室の歩き方

史跡田名向原遺跡

見どころ

Point!
1

国内で唯一

後期旧石器時代の建物跡の条件★が揃っている

*条件 柱穴、炉跡、外周円礫、石器の出土状況など

Point!
2

世界でも類例のない大きさ

約2万年前、直径10mの建物跡

Point!
3

約3,000点の石器の約8割が黒曜石製

遠方の黒曜石産地（神津島産除く）との交流が考えられる

?

史跡田名向原遺跡の住居状遺構とは・・・?

約2万年前に繰り返し使用された建物。その用途は、石器工房、流通センター、狩猟拠点、メッセなどなど、多くの可能性が考えられています。



エントランスは足元に注目!

田名向原遺跡が使用されていた約2万年前は、最終氷期でした。今より7、8度気温が低く、現在の東京が北海道になるくらいの気候と考えられています。そのため、海は氷り、陸が広がりました。海岸線が現在とは異なり、東京湾はありませんでした。そのような厳しい環境下、田名向原遺跡では、神津島以外の関東産地の黒曜石がすべて使用されていました。



電話もネットも、電車も車もない時代、100km、150km遠方の黒曜石産地をどのように知り、どのように黒曜石は運ばれていたのでしょうか。

黒曜石の原石

田名塩田遺跡群から出土した「黒曜石の原石」。だから?と思っははいけません。黒曜石の産地から遠く離れた地域で原石がまとまって出るのはとても珍しいことです。大切にしまっておいたのか、大切な人に供えたのか、思いを馳せてみてください。



石蒸し料理
万歳

出土遺物や民俗事例から旧石器時代は、焼いた石と葉などで食材を蒸す「石蒸し料理」をしていたと考えられています。石選び、穴掘りなど、直火よりも手がかかります。

「直火でこんがり」「蒸してふっくら」なかなかグルメです。

3つのまちがいをさがせ!



- ・縄文時代といえばこれ!勝坂式が有名
- ・ここからじゃ今も見えない、日本一の山
- ・北海道のむかわ竜(ムカイサウルス・ジャポニクス)の化石は、約7200万年前。

下の絵には、展示室の絵にはないものが3つあります。わかるかな?



田名向原遺跡発見の瞬間

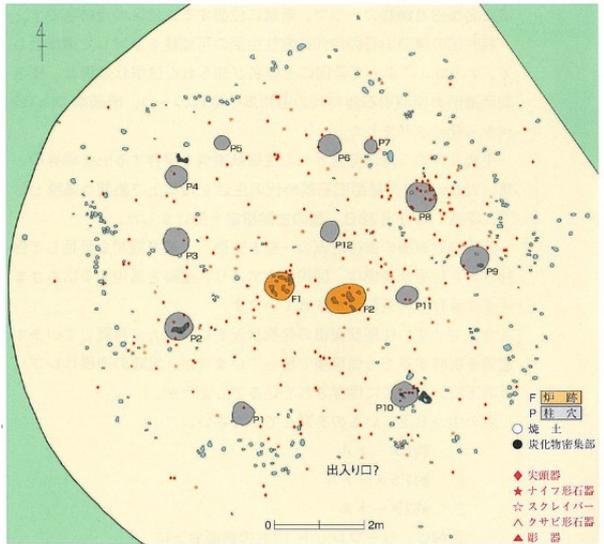
平成8（1996）年10月からA地区No.4地点の発掘調査が開始されました。ローム層の調査は翌年2月下旬からはじまり50cm程掘り下げたところで石器が出土しはじめ、3か所の石器集中部が確認されました。

3月下旬に至り、表土下2.5mの遺物集中個所から約3,000点もの石器が出土し、それらを囲うように拳大の多数の円礫が、直径約10mにわたって環状に巡る特異な状況が確認されました。

石器を取り上げ、全景写真撮影のためファインダー越しに遺構を観察したところ、柱穴と考えられる12か所の青黒いシミ状の変色部が確認されました。さらに中央部付近から炉とみられる2か所の焦土集中個所が見つかりました。

柱穴や炉を兼ね備えたこの遺構を「建物跡」と想定し「住居状遺構」と呼ぶこととしました。

平成11（1999）年1月28日。我が国最古の建物跡であり、大量に発見された黒曜石の石槍などが遠隔地との交流を示すなど当時の生活を示す重要な遺跡であるとして指定告示されました。



「田名向原遺跡 I」 2003.3 相模原市教育委員会を加工

黒曜石でなにがわかる？

黒曜石は火山の噴火で生成される天然のガラスです。世界各地で金属器が利用されるまで重要な原材料として利用されてきました。黒曜石が産出する地域では、例外なく黒曜石原産地で資源開発が行われ、その利用が広範囲にわたることが知られています。

原産地が火山帯の近辺に限られ、他の石材に比較して長距離を運搬される性格から、黒曜石は、先史時代の遊動領域、交換・交易といった人間社会のさまざまな動きを理解するための重要な手がかりを与えてくれます。

講演会 島田和高先生（2019）

石器の接合からイロ考える

出土した資料を同じ石材ごとに分類し、その後、同じ石材の石器同士を入念に観察し、表面の状態や色などの違いによりグループに分類します。これを「母岩分別作業」といいます。その後、同じグループ内の石器の接合作業（パズルのように合わせる）を行い、石器の製作方法の復元に努めます。

田名塩田遺跡群では、2つの母岩の接合が確認されました。展示では、出土した石器の下にシールがありその色とレプリカのパーツの色がリンクしています。当時の人がどのような手順で石器を製作したのかよくわかります。

この方法は、1970年代初頭に砂川遺跡から出土した石器の分類に用いられ石器製作の方法以外にも大きな成果を上げました。

- ①接合資料の真ん中部分がすっぽり抜けている
 - 石器製作後、核となる部分が他の遺跡へ持ち出された
- ②真ん中部分のみ存在し、周囲の部分がないもの
 - 他の遺跡で核となる部分に加工され持ち込まれた
- ③ほぼ単独で存在しているもの
 - 他の遺跡で石器やその素材まで加工され、持ち込まれた

石器が複数の遺跡の間で継続的に利用されていたであろうということを類推することを可能にしました。

Re さがみはら石器図鑑

石器は、大きく「狩猟具」と「加工具」に分けられます。後期旧石器時代の主な狩猟具は「投げ槍」と考えられています。突く、刺す、切るといった用途が想定されます。旧石器時代の狩猟具をご紹介します。

〔旧石器時代前半期〕

台形様石器

台形状に加工した後期旧石器時代初頭の特徴的な石器。



津久井城跡馬込地区 水晶

ナイフ形石器

素材の鋭い縁辺を一部残し、周囲に刃潰し加工した石器。多様な形式に分類される。



横山5丁目遺跡 チャート

〔旧石器時代後半期〕

角錐状石器

分厚い剥片を角錐状に仕上げた石器。断面は三角形または台形。槍先として使用されたという考えがあります。



中村遺跡 黒曜石

槍

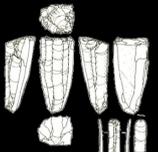
先端を尖らせた、槍先の形をした石器。両面加工、片面加工、周縁加工等の種類があります。切る、削るなどにも使用していたと考えられています。



古淵B遺跡 安山岩

細石刃・細石刃核

長さ数cm、幅1cm以下の極小の石刃。木や骨の溝に複数個はめ込んで使用。替刃式。



当麻島形遺跡 黒曜石